

⑧ 大鳥居の石柱

⑨ 六所皇大神宮と石柱の由来碑

六所皇大神宮と石柱の由来

當霊地は筑波地方の総社として神武天皇四年（紀元前六五七）

創建されたと言われる旧六所神社の旧跡地である

当社は人皇九代開化天皇三十八年正月筑波の神主に勅

して夏冬の祭事を定めしむとあって夏至と冬至には当社と

筑波山上の宮との間に神霊遷座式即ち御座替祭が行

われた 現在筑波山神社の御座替祭は之である

この時 神の御更衣をも行うのでこの祭を神御衣と言

當宮を筑波山里の宮とも男女御座替宮とも称された

又往古に伊勢大廟の御分社となり御所大神宮 或は

六所皇大神宮と称され伊勢大廟の代拝所として遠近

の人々の崇敬厚い宮であった

それ故に桓武天皇二十年征夷大將軍坂上田村麿奥州

征伐の帰途 当宮に詣うで神鏡宝劍馬具等を奉納

凱旋の報告をなし石鳥居を建立せられた

明治三年の暴風雨で社頭の老杉が倒れた時鳥居は破碎され

その中より「石鳥居征夷大將軍坂上田村麿建立」と彫つてある

直径三寸五分厚さ二分の丸形銅鏡が現れた

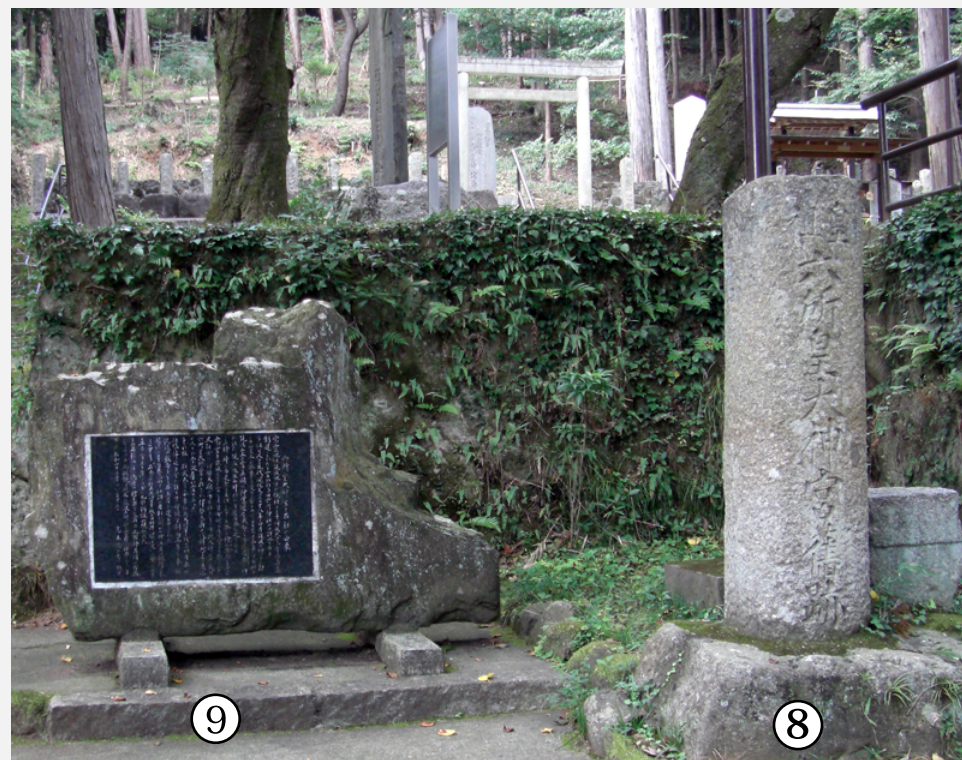
この石柱はその鳥居の折れ石で笠石は正面神石碑の台石

になっている 尚銅鏡は現在筑波山神社の宝庫に保管されている

昭和四十五年旧八月十五日

高木泰太郎 記す

碑文



昭和 45 年旧 8 月 15 日建立

平安初期、征夷大將軍坂上田村麿が、蝦夷征伐の帰途当宮に詣で、石の鳥居を寄進し建立したと伝えられている。

明治 3 年の暴風雨で社頭の老杉が倒れた時、石の大鳥居は破碎され、その中より「石鳥居 征夷大將軍坂上田村麿建立」と記した銅鏡が発見された。この石柱（右 8）はその折れた鳥居の一部である。

六所皇大神宮と石柱の由来碑（左 9）は、鳥居の石柱の由来について、二世会長先生が認められ、同令夫人の書による碑。